



大阪公立大学共同出版会

No.29

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目 次

・第9回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告	中村 治	1
・福嶋 聰著「紙の本は、滅びない」を読んで	足立 泰二	2
・「著者が語る 第29回OMUPサロン」の報告		2
・自著を語る (11) わたしが地域誌を作る理由	中村 治	3
・書評掲載記事		4
・新刊案内		5
・大阪公立大学共同出版会事務局より		6
・編集後記		6

第9回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告

中村 治

去る6月28日(土)午前9時30分より10時30分まで大阪府立大学A14号棟2階会議室において、第9回NPO法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)の総会が開催された。総会成立の確認後、足立泰二理事長を議長に選出し、さらに上田純一常務理事と中村治常務理事を議事録署名人に指名して、議事に入った。

第1号議案「平成25年度事業報告」では、同年度に22点の出版を行ったこと、学術研究の成果を一般市民にもわかりやすく提供する「OMUPブックレットシリーズ」の刊行に力を入れたこと、出版目録、「読ン得本々」などを制作したことなどが報告され、満場一致で承認された。

第2号議案「平成25年度事業決算」は、表に示す通りである。3項目の質問があった。これについては来年の総会資料に反映することとし、満場一致で承認された。

第3号議案「会員・入会金の扱いについて」については以下の案が、満場一致で承認された。「正会員の『終身会費』の取り扱いは当分の間、次のように扱う。入会金10,000円の既納入者は、入会後10年を経過した時点で会員継続の意思を問う。」

第4号議案「業務契約」については、電話秘書業務の委託契約、杉本公認会計士事務所との顧問契約、ホームページの

維持・管理契約、事務局業務の契約、責任編集業務の委託契約のそれぞれについて、満場一致で承認された。

第5号議案「平成26年度事業計画」については、受託出版事業、出版物の受託販売事業、OMUPブックフェアの開催、出版目録の作成と配布、ニュースレターの発行(年間2回)、ホームページの運営、OMUPサロンの開催など、おおむね前年度と同様の事業を展開することとし、満場一致で承認された。

第6号議案「平成26年度事業予算」については、表に示すような予算が提案された。一項目について助言があった。来年の総会資料に反映することとし、満場一致で承認された。

以上すべての議案が満場一致で承認され、議長の足立泰二理事長が閉会を宣言して終了した。

H25年度決算書及びH26年度予算書 (単位:円)

科 目	H25決算額	H26予算額
事業収入	16,116,835	15,300,000
書籍売上	3,328,738	3,300,000
出版収入	著者負担 〃	6,009,471 6,353,626
寄付金収入	345,000	120,000
入会金収入	80,000	80,000
その他の収入	31,576	30,250
受取利息	213	250
雑収入	31,363	30,000
当期収入合計	16,148,411	15,330,250
売上原価	10,549,092	9,994,517
期首商品棚卸	2,678,275	2,594,517
製作費	8,191,847	7,900,000
運送・発送費	661,508	700,000
編集デザイン料	1,611,979	1,500,000
期末商品棚卸	2,594,517	2,700,000
管理費	4,679,627	5,073,000
雑給	2,636,434	2,750,000
福利厚生費	11,562	20,000
業務委託費	642,861	650,000
旅費交通費	421,530	450,000
通信費	69,179	70,000
交際費	51,253	70,000
会議費	28,729	30,000
水道光熱費	19,826	20,000
著者精算	324,576	450,000
消耗品費	122,458	120,000
事務用品費	82,654	90,000
広告宣伝	118,885	200,000
支払手数料	76,958	80,000
新聞図書費	2,680	3,000
法人税等	70,042	70,000
当期支出合計	15,228,719	15,067,517
当期収支差額	919,692	262,733
前期繰越収支差額	3,324,088	4,243,780
次期繰越収支差額	4,243,780	4,506,513

福嶋 聰著「紙の本は、滅びない」を読んで

OMUP理事長 足立 泰二



福嶋 聰 氏

博しているので紹介したい。

2010年、鳴り物入りで電子書籍元年とキャンペーンを張ってメディアが騒ぎ立てた。あれは日本とアメリカだけの喧騒だったのだろうか。そんな中で同氏は広い視点から、そして同氏の人柄をさらけだしながら論を展開している。

まず、電子書籍は、紙の本にとって代わるのか？（第1章）と問いつつ、「紙の本」の優位性をメディアとしての安定性、信頼性、そしてその勁(つよ)さの点から強調する。巷間、「書物の終焉」などと喧伝される中で、なんの紙の本は電子ブックに対し想像以上にしぶとく、本というにはコンテンツにとって非常に便利な「乗り物」だったと感じている（佐野真一×福嶋聰対談「週刊金曜日」2008年5/5号）。本を命あるものとして、「動く」あるいは「生きている」実体にたとえ、寿命の長い媒体としてとらえている。ウェブ媒体で「ヴァーチャル」とも言われる電子書籍の何と「はかない人生」であることか。同氏の主張は続く。本屋の起源、著作権問題など、氏のメディアに対する良識が彷彿とする。

デジタル教科書と電子図書館（第2章）では、まず、脳科学研究の成果から、元来、人間には「文字を読むための遺伝子」ではなく、「可塑性」がある。教科書のデジタル化がもたらす情報伝達の効率化は決して創造的精神性の育みにつながらない、という展開を見る。教育界よりも経済産業省や産業界が熱心なIT教育の推進にはもっと慎重な議論、探求を要することを説く。「デジタル教科書革命」の欺瞞性を暴き、今の「学び」のありようにまで論を進めようとの意図さえ感じられる。この主張には筆者が最近読んだ本、辻本雅史著「学びの復権—模倣と習熟」（岩波現代文庫）にも共通する。

一方、この章のなかで、「教育は未来への最大の投資だ」とする著者が、敢えて「大学と出版」の項をあげ、我が大阪公立大学共同出版会の現況を好意的に取り上げている。日本の書籍出版・売上の実情からみれば、流れに掉さすような行為とも見えなくもないが。もちろん情報蓄積、検索の機能では電子図書館システムの点では「長尾構想」は是認できる。しかし、図書館に司書が絶滅種になってよいのかとの議論もある。最近、公共の図書館に「指定管理者」あるいは「民間

業務提供者」に国内大手書店が参入している実態を散見するにつけても、その危機感を実感する。

書店は、今…（第3章）はインターネットの情報の海に直面して、書店あるいは「書店員」が直面する諸問題にどのように対処すべきなのかについて、多面的見方から切り込んでおり、著者の職業人としての思想性を感じさせるものである。同氏は、まさに「迷い込み、本の樹海へ！」と訴えている。

全体を通じて、これまで本欄で紹介した小田光雄著「ヨーロッパ本と書店の物語」と対応させながら読むと、「紙の本は、滅びない」との主張を実体験できるものと信ずる。

「著者が語る 第29回OMUPサロン」の報告

2014年6月28日（土）第9回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会のあと10：30より開催されました。

今回は大阪市立大学大学院経済学研究科教授長尾謙吉氏をお招きし、3月にOMUPブックレットNo.46として出版された『大都市圏の地域産業政策 一転換期の大阪と「連環」的着想』について制作秘話や裏話もたっぷりとお話しいただきました。

そもそもこの本は、2012年7月28日に開催された大阪市立大学経済学研究科の修了生の同窓会「如新会」の夏季シンポジウム「大阪の地域経済と地域産業政策」が下敷きとなり、同シンポジウムでの講演者が共著の形で執筆されました。大阪の経済的衰退の通説に批判的な視座を持った著者達が、既存の枠組みを超えた「連環」的着想の意義を提示している意欲作です。第2弾としてフランスなど海外の都市経済の研究成果をまとめたブックレットを考案中とのことでした。

（文責：金井一弘）



自著を語る（11）

わたしが地域誌を作る理由

中村 治

今のわたしたちの暮らしには、機械や車がすみずみまで入り込み、その結果、わたしたちは自然環境、地域共同体とのかかわりなしに暮らせるかのように思えるほどです。家の中は冷暖房完備。水は、蛇口をひねれば、好きなだけ出、汚れた水はすぐどこかへ消え去ってくれます。買い物は、スーパーマーケットへ行けば、だれと話をしなくともでき、好きなものが、あまり季節にかかわりなく手に入ります。ゴミは、指定された場所に出しておけば、どこかへ持って行ってもらいます。出かけるのはどこへ行くのも車。しかしそのような暮らしに問題がないわけではありません。むしろ自然環境の悪化、孤独死など、さまざまな問題が起きており、それへの対応にわたしたちが追われていると言つてもよいでしょう。

ではこのような問題にわたしたちはどのように対応し、これからどういう方向へ進めばよいのでしょうか。それを考えるうえで、かつての自然環境とのかかわり方、地域共同体とのかかわり方がどのように変化し、それがいつごろから変化し、その結果、わたしたちは何を得て、何を失ったのかを知つておくことは、きわめて大切なことだと思うのです。

ところが政治や経済に関する資料は比較的よく残っていても、暮らしの変化に関する資料はあまり残っていません。残っていても、どこか見知らぬ地域の資料では、何か他人事のように思え、人々に関心を持つてもらえない。では身近な地域の暮らしの変化に関する資料はどうすれば入手できるのでしょうか。これは、金を払いさえすれば与えられるというものではありません。たとえ不十分なものであっても、わたしたちが自分で作るよりほかないと思うのです。わたしが、生まれ育った京都の岩倉で、近くの小学校の創立20周年記念事業として地域誌を作成することを頼まれた時、専門でもないのに引き受けたのは、そのような思いもあったからでした。

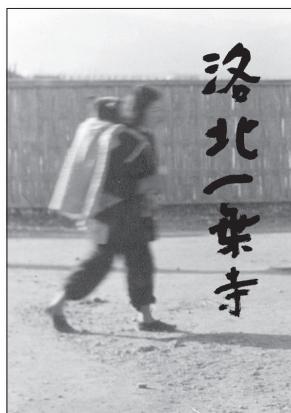
その時、わたしが採ったのは、地域の人からアルバムを見せてもらい、地域の風景が写っている写真、家族や地域や学校の記念写真などを複写させてもらい、文章の脇に置かせてもらうという方法でした。それらの写真は、素人が撮っていることが多く、画質のよくないものも含まれているものの、各時代の人々の思いを伝え、地域の暮らしを示していることもあります。それらを集めて並べると、地域における暮らしぶり

とその変化がよくわかるのではないかと思ったのです。

ただし写真には、いつ、どこで、何が写されているのか、よくわからないものもあります。わたしは複製した写真のうち、これはと思う写真を持ち、地域の古老人のところへ行き、説明を求めました。たいていの場合、「昔のことを話して欲しい」と古老人に頼んでも、何も話してもらえないが、古写真を見せると、熱心に説明してもらえるだけでなく、自分の思いも話してもらいました。そしてその説明と思いを古写真に付け加えると、それだけでは何が写っているのかよくわからなかった写真が輝きだすことがよくあったのです。

もっとも、古写真を並べ、それに説明を付けているだけでは、地域がたどってきた歴史はわかりません。地域に関する文献もできるだけ調べ、古写真や聞き取りの理解を深められるようにしました。そうして出した『洛北岩倉誌』（1995年）は好評で、地域の人に読んでもらえただけでなく、他の地域の人が「自分の地域でもあるような本を作りたい」と言って、実際に作られた地域もありました。また、「自分の地域でもあるような本を作りたいけど、方法がわからない」と言う人もいました。そのような場合は、古写真集めと聞き取りに協力してもらうことを条件に、できるだけ協力させてもらうことにしています。普遍的な大きな問題は、どこかにころがっているのではなく、地域を徹底的に見つめて、ようやく見えてくるものだと思うのですが、地域の人との人間関係なしに地域の調査をすることはとても難しく、そのような機会をもらえることは、時間が許す限り、とてもありがたいことだからです。また、一つの地域だけを見ていてわからないことも、他の地域を見ると、わかることもあります。この2014年3月に『洛北一乗寺』と『洛北静原』、4月に『あのころの阿倍野』を大阪公立大学共同出版会から出してもらったのですが、これらはそのようにしてできたのでした。

これらは、「古写真が十分に集まった」とか、「古写真に関する説明が尽くされた」などと思って出したのではありません。それとは逆で、「こんな写真ならうちにもある」と思われた方から写真を見せてもらい、「この写真に関しては思い出がある」という方から、話を聞かせてもらいたいと思い、出したのです。これらの出版を機に、古写真がさらに見つかり、地域に関する思い出を語ってもらい、地域の共有財産をさらに豊かにして、次の世代に伝えていくことができるようになるとともに、わたし自身、地域から学ばせていただければと思います。



洛北一乗寺

中村 治 著

ISBN978-4-907209-15-5 C1039

A4判、並製本、52頁

定価：本体価格1,200円+税



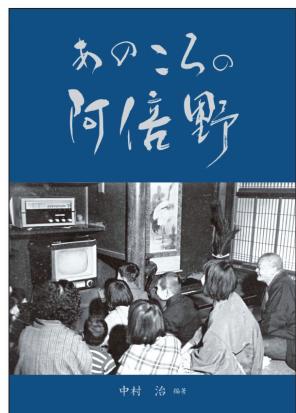
洛北静原

中村 治 著

ISBN978-4-907209-21-6 C1039

A4判、並製本、52頁

定価：本体価格1,500円+税



あのころの阿倍野

中村 治 編著

ISBN978-4-907209-27-8 C1039

A4判、並製本、104頁

定価：本体価格2,000円+税

書評掲載記事

あのころの阿倍野

中村 治 編著

- ・毎日新聞 2014年4月27日
- ・大阪日日新聞 2014年4月29日
- ・読売新聞 2014年5月9日



たるから水をくんで屋根に運ぶ防空演習の参加者ら
=昭和18（1943）年ごろ



大阪市阿倍野区の
古き時代に親しめた
ものたち



ミシンの講習会。ミシンで洋服を作ろうとしている女性はみな和服姿だった =昭和5（1930）年ごろ



昭和町東三丁目町会のバケツリレー競争。空襲による火災に備えて、消防に当たる訓練だった
=昭和15（1940）年ごろ



常設の「まちかど昭和写真展」を開いた中村教授（右端）ら
=大阪市阿倍野区で

毎日新聞 2014年4月27日より

洛北一乗寺

中村 治 著

- ・読売新聞 2014年4月20日

洛北静原

中村 治 著

- ・京都新聞 2014年3月19日

- ・朝日新聞 2014年4月18日

不動産価格バブルは回避できる —不動産価格形成の本質を踏まえて—

建部 好治 著

ISBN978-4-907209-11-7 C3033

A5判、並製本、362頁
定価：本体価格3,500円+税

- ・「有恒会報」第200号 甲南大学名誉教授 中島 将隆
- ・「日本不動産学会誌」第28号第1号

京都大学大学院経済学研究科教授 植田 和弘



新刊書の紹介

OMUPブックレット No.45 「みやざき自然塾」シリーズ3
マンショからオラショまで(その2)
～長崎県生月島の隠れキリストによる「歌オラショ」とその行く末～

竹井 成美 著

ISBN978-4-907209-16-2 C1373
A5判、44頁 定価：本体500円+税



OMUPブックレット No.46 「みやざき自然塾」シリーズ4
環境と神楽 一宮崎県の神楽の特色ー

永松 敦 著

ISBN978-4-907209-24-7 C1333
A5判、88頁 定価：本体800円+税

OMUPブックレット No.47 「みやざき自然塾」シリーズ5
生氣溢れる宮崎の自然、そして科学と社会の調和

フランツ・ホフマン（述）
平瀬 清（訳）

ISBN978-4-907209-25-4 C1345
A5判、10頁(英)・12頁(和) 定価：本体500円+税

大阪市立大学基礎生物学実験テキスト
生物学実験への招待 全コース
大阪市立大学理学部生物学科 編

生物学実験への招待 Aコース
大阪市立大学理学部生物学科 編

ISBN978-4-907209-17-9 C3045
B5判、258頁 定価：本体2,000円+税

生物学実験への招待 Aコース
大阪市立大学理学部生物学科 編

ISBN978-4-907209-18-6 C3045
B5スパイラルバインダ判、90頁
定価：本体1,000円+税

生物学実験への招待 Sコース
大阪市立大学理学部生物学科 編

ISBN978-4-907209-20-9 C3045
B5判、70頁 定価：本体900円+税



大阪府女子専門学校十年史草稿付
見学旅行資料・戦時期学校日誌

府女専資料刊行会 編

ISBN978-4-907209-12-4 C3037
A4判、上製本、518頁
定価：本体6,000円+税



空間論的転回序説
ハードウェア／ソフトウェア
境界一思考

中井 孝章 著

ISBN978-4-907209-13-1 C3036
A5判、上製本、154頁
定価：本体2,000円+税



ESP教育のニーズ分析
産学のグローバル人材育成を目指して

岩井 千春 著

ISBN978-4-907209-14-8 C3037
A5判、上製本、352頁
定価：本体3,700円+税

on dit/ on fait

MF Pungier・浅井 美智子・猪俣 紀子 編

ISBN978-4-907209-22-3 C0085
A5判、並製本、64頁
定価：本体900円+税



新刊書の紹介



教育臨床学のシステム論的転回

中井 孝章 著

ISBN978-4-907209-26-1 C3037

A5判、上製本、150頁
定価：本体2,800円+税



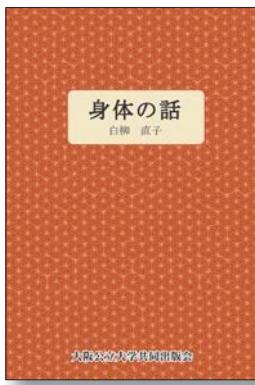
熱統計力学

石井 廣湖 著

ISBN978-4-907209-31-5 C3042

B5判、並製本、280頁
定価：本体2,000円+税

大阪公立大学共同出版会事務局より

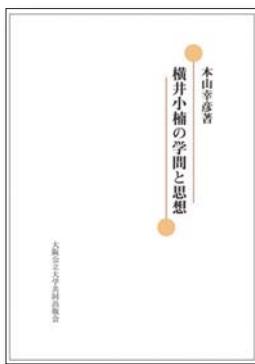


身体の話

白柳 直子 著

ISBN978-4-907209-28-5 C0077

四六判、並製本、140頁
定価：本体1,500円+税



横井小楠の学問と思想

本山 幸彦 著

ISBN978-4-907209-29-2 C3012

A5判、並製本、220頁
定価：本体2,400円+税



英語の冠詞と(数)の仕組みがわかる指導 —入門期に導入する認知文法の視点—

岸本 映子 著

ISBN978-4-907209-30-8 C3082

A5判、並製本、334頁
定価：本体2,700円+税

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学中もずキャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局

電話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

URL：<http://www.omup.jp/>

入会金：一口一万円

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編集後記

先日OMUP年次総会を無事に終了することが出来ました。会員の皆様のご協力のお蔭と心から感謝いたします。昨年度は、たくさんの新刊本が出ました。どれも著者の熱い思いのこもった読み応えのある内容です。より多くの方々が手に取って読んでいただけたらと願ってやみません。 (NK)